

広報なみえ 浪江のこころ通信 に関するアンケートにご協力ください

「広報なみえ」「浪江のこころ通信」を読者の皆さまにとってより良いものとするため、アンケートにご協力をお願いいたします。

ご回答はこのページ下のハガキにご記入のうえご返送ください。(メールでも受け付けます。 [e namie12030@town.namie.lg.jp](mailto:namie12030@town.namie.lg.jp) までお送りください)

問1

広報なみえは、町の復旧・復興の進捗を知るのにどの程度役立っていますか？

- A) たいへん役立っている B) まあまあ役立っている
C) あまり役立っていない D) 全く役立っていない

問2

広報なみえ以外に、どこから町の復旧・復興の進捗に関する情報を入手していますか？(複数回答可)

- A) 新聞やテレビの報道 B) 浪江町ホームページ C) 家族や友人・知人から
D) フェイスブックなどのSNS E) その他(具体的に)

問3

広報なみえの「浪江のこころ通信」は、被災体験を「こころの記録」として残すだけでなく、さまざまなおまな選択をされた町民の皆さんが、お互いの経験をお互いの生活再建の参考にしていただけるよう発行を続けています。編集部では、誌面に登場してご自身の経験を読者と共有して下さる方を募集しています。ご協力をお願いしますか？

- A) 取材に協力してもよい
B) すでに取材を受けたことがあるが、再取材に協力してもよい
C) 以前に取材を断ったが、いまなら協力してもよい
D) 取材には協力できない
E) その他

※特段のご返信がない場合、事務局から取材ご協力依頼のご連絡をさしあげることがあります。

問4

「広報なみえ」は避難先届出住所へ送付しています。今後の送付についてお聞かせください。

- A) 現状どおりでよい
B) 新たな送付先を追加したい
(追加する送付先住所)
C) 送付を停止してほしい
(現在の送付先住所)
D) 送付先を変更したい
(新しい送付先住所)

問5

浪江町タブレットをご利用の方に伺います。「なみえ新聞」は利用していますか？C、Dとお答えの方はその理由も教えてください。

- A) 毎日見ている B) ときどき見る
C) ほとんど見ない D) 全く見ない

《広報なみえ/浪江のこころ通信に関するアンケート回答》

(答えのアルファベットに○をしてください)

問1 A B C D

問2 A B C D E _____

問3 A B C D E _____

問4 A B C D (B~Dの場合は住所記入)

問5 A B C D

C、Dの方はその理由:

お名前: _____ (才)

お電話番号: _____

現在のお住まい: 福島県内 ・ 福島県外

ご協力ありがとうございました



福島民話の語り部
みちのくの会代表 **吉川 裕子さん(権現堂)**

取材者：京都府駐在浪江町復興支援員 富川・土田
取材日：4月30日

今、頑張れる源は浪江を想う気持ち

平成24年7月の広報なみえに掲載されて以来、約3年ぶりの取材になります。大阪府堺市を拠点に大阪府高齢者大学校でお仕事をしながら、福島の民話や被災体験を伝える語り部の活動を精力的に続けられ、悲しい話を明るく語り、前向きな姿勢で多くの人が浪江町を想う機会をつくっていらっしゃいます。



▲会津がすりのモンペ姿で語り部の活動を行う吉川さん



▲語り部を聞いた子どもたちから寄せられた感想文

■悲しいことを浪江の言葉で、明るく伝える
この4年間、ふるさと浪江のことを想いながら、大阪を拠点に過ごしてきました。昨年度より、大阪府高齢者大学校(生徒数2,500名余り64科)のクラスディレクターとして1クラスを受け持ち、お世話をさせていただいています。健康や医療、スポーツ交流会、高天祭や修学旅行などのカリキュラムに合わせて、年齢に関係なく必死に学ぼうとされる方々とともに充実した毎日を送っています。
また、浪江にいた時からの語り部活動も続けており、大阪だけでなく、高知や岡山、静岡などからもお声をかけていただき、話をしていきます。いつも会津がすりの

モンペをはいて『菌形の栗』などの浪江の民話や被災体験を浪江の言葉で、どんな悲しく辛い話も明るく伝えるようにしています。皆さんは、泣いたり笑ったり真剣に聞いてくださいます。
語り部を聞いた子どもたちが書いてくれたたくさん感想文は、私の宝物です。夜、なかなか寝付けない時などは、その感想文を読み返しながら、元気をもらっています。
そして昨年は、語り部を通じて知り合った大阪のお坊さん約20名を浪江の請戸に案内して、供養をしていただきました。とてもありがたかったです。
浪江の自宅へは、いつも誰かを案内して回るのでなかなか帰宅できない状況ですが、このように多くの人たちとの関わりの中で、忙しい日々を過ごしています。
■好きなものは先に食べ、仕事は今やる習慣を
あの日以来、料理やデザートなどでも好きなものは、先に食べ、やらなければならぬことは、すぐにやることにしています。突然、会いたかった人に会えない、やりたかったことができなくなるとは本当に辛いことです。それを感じるたびに、まさに「今」を大切に生きる大切なんだと思うようになりました。語り部の活動

でも必ずそれを伝えるようにしています。
東京に住んでいた長男は、私たちがお世話になっていた大阪に恩返ししたいと大阪で消防士になりました。夫も消防士でしたので、嬉しい反面、今後どこで暮らしていくか、浪江に戻りたいという思いはありますが、とても難しい問題です。現在、4人の子とも5人の孫がみんなで集まる実家がなく、子どもや孫にとっても帰れるふるさとがないことは本当に寂しいことです。
■「一緒にがんばっぺなー」
おかげさまで、大阪に来ていろんな体験をさせていただきました。たくさんの人たちに出会いました。言葉や食事も違うし、初めは浪江に帰りたい、浪江での近所の方たちに会いたい、いつも思っていました。ここまで時間が経ってしまふと震災前の浪江での人とのつながりも少しずつ薄れていくようで、とても寂しいです。今のところ、大阪でお世話になっていくからには、こちらの人たちに添えるようにしていきたいです。
悲しく生きるか、周りの人たちと交わって生きるかは自分次第、お天道様が上がってこない日はないので、楽しく有意義に生きていきたいと思います。
「皆さん、一緒にがんばっぺなー」

浪江のころ通信

●第49号●

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、「浪江のころプロジェクト」が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のころ通信」が編集・発行されます。

浪江のころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

再取材シリーズ 再会・浪江のころ

これまで取材を受けていただいた皆さんに、再度の取材を行うコーナーです。
3・11から4年以上が経過した今、感じていること、伝えたいこと、そして最初の取材以降の気持ちの変化やふるさとへの思いなど皆さんの声をお届けします。

「浪江のころ通信／第49号」への感想をお寄せください。
【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地「浪江のころ通信」宛
FAX.0243(22)4218



料金受取人払郵便
二本松局
承認
1504

郵便はがき
9648790

差出有効期限
平成28年
3月31日まで
有効

二本松市北トロミ573
浪江町役場 二本松事務所
復興推進課
「広報なみえ」担当 行

